

「哀愁の宗谷岬」

「金沢の雨」

「金毘羅一段」

「春夏秋冬」

「浜唄」

「憧れの住む町」

「のれん一代」

「恋桜 小林幸子」

「緑のふるさと」

「おおつごもりの 大晦日」

「あや子のお国自慢だよ」

「夜空 五木宏」

「嵐嵐がきても」

「まごころの花」

「私からあなたへ さくらまや」

「ふるさと忍冬」

「凜と咲く 真木ことみ」

「哀愁の宗谷岬」

作詞：西條みゆき 作曲：吉幾三 演唱：西尾夕紀

女ひとりで 出直す旅は 哀しみまとい 北国まわり
涙凍てつく オホーツク 思い出揺れる 稚内
灯もとめて たどり着くのは 北の 北の最果て 宗谷岬

霧の向こうの サハリン見れば 翼をなくして 鳴く鳥悲し
みれん心も 何もかも 宗谷の風よ 吹き払え
紅い花びら 散らす恋にも 春は 春はまた来る 宗谷岬

「金沢の雨」

演唱者：川中美幸

東京ことばと加賀なまり 愛するところに 違いはないわ

合縁奇縁のこの恋を 咲かせてみせます あなたと出会った片町
あたり 相々傘です金沢の雨

影笛きこえる茶屋街の 灯りがぼんやり滲んで揺れた

男の甲斐性と意地張らず わたしにください

石段坂道苦勞を背負って ふたりで濡れましょ 金沢の雨

川なら犀川浅野川 春夏秋冬水面に写す 友禅流しの緋の色は
緋の色です 雨の日晴れの日 寄り添いあって 相々傘です金沢
の雨

『金毘羅一段』

作詞：さわだすずこ 作曲：武市昌久 演唱：長山洋子

丸に赤色 金の字は 金毘羅さんの 旗印

願い 心に 石段を 登れば見える 讃岐富士

人生 一段 一段ごとに 思いを踏みしめ 歩いて行こう

長いようでも 人の世は あつという間の 紙芝居

金毘羅船々 追手に帆(ほ)掛(か)けて 人情の木に 花が咲く

四国名物 阿波踊り 踊る阿呆に 見る阿呆 同じ阿呆なら ソ
レソレと 袖(そで)を引っ張る 温ったかさ 泣いて暮すも 一
生ならば 笑って暮そよ いい事あるさ 親の意見と 茄子(なす)
の花 先人(せんじん)たちの 心意気 金毘羅船々 三味線 片手
に 衿(えり)を正して 春を待つ

『春夏秋冬』

作詞：阿久悠 作曲：三木たかし 演唱：石川小百合

ああ 私 もう 冬に生きてくありません 春夏秋冬 そんな一年

あなたと過ごしたい

ここへ来て泣けました日の入りや月の出に素直さが美しく化粧も紅(べに)少し見る夢も懐しくよく笑うあなただけ来ませんか来ませんかしあわせになりに来ませんか

悲しみを捨てました朝焼けに夕立にやさしさを思い出し過ぎた日もほのぼのとよく濡れた枕さえ今はもう乾いてる来ませんか来ませんかしあわせになりに来ませんか

来ませんか来ませんかしあわせになりに来ませんかああ私もう冬に生きたくありません春夏秋冬そんな一年あなたと過ごしたい

【浜唄】

歌：石川さゆり 作詞：なかにし礼 作曲：弦哲也

朝だ船出だ 錨を上げろ 沖じゃ秋刀魚(さんま)が 待っている
陸(おか)で手をふる 恋女房に 照れて笑って 綱を巻く 二千年 二万年 浜じゃこうして 浜じゃこうして 生きてきた

船は出て行く 朝日が昇る かもめ飛び立つ にぎやかさ 漁に出る日は 素肌と素肌 あたためあつて 送り出す 無精髭なの
私の亭主 ちくりちくりと 痛かった 二千年 二万年 浜じゃこうして 浜じゃこうして 生きてきた

引けよ綱引け 大漁綱を 月に秋刀魚の 群れ踊り 船を飾った
五色の旗で 海の風切る 心地よさ
二千年 二万年 浜じゃこうして 浜じゃこうして 生きてきた

た生きてきた

「憧れの住む町」

作詞：清水　みのる　作曲：平川　浪竜　唄：菅原都々子　翻譯：七語

丘を越え　山を越え　あこがれの　住む町に　夢をだいて　ゆ
くよ　はるばると　鐘が鳴ります　遠い　遠い空で

旅ゆく身に　やさしく　しみじみと

りんどうの花の道　白樺の　つづく道　影を慕い　ゆくよ　は
るばると　鳥も呼びます　山の　山の彼方

旅ゆく身に　やさしく　なつかしく

愛の町　日昏れ町　ともしびの　見える町　峠こえて　ゆくよ
はるばると　乙女ごころに　降るは星のしずく

旅ゆく身に　やさしく　はてしなく

翻越丘陵翻過山，去往憧憬所居住的小城，還抱著夢想向前走，
走向遠方，在遙遠的天邊溫柔的鳴響了晨鐘，那鐘聲讓途中的我
感受如此深刻。

林間小道百花盛開，白樺在道理兩旁綿延，我追隨著它們的影子
向遠方走，在山的另一邊，鳥兒溫柔的鳴唱，那叫聲讓途中的我
感覺那麼懷念。

我要去往那愛的城市，日暮的小城，那座能看到燈火的小城，翻
閱過山嶺向前走，奔向遠方走，墜落在少女心裏的是，那星辰的
點滴，那溫柔的點滴，讓我感覺無邊無際。

『のれん一代』

作詞：三浦康照 作曲 市川昭介 演唱：美空ひばり 昭和40年

緋(しま)ののれんに この意地かけて 男まさりが 耐えて来た
負けちゃならない 浪花の女 通天閣の 赤い灯よりも

胸を燃やした 土根性

口じやいえない 幾年月の 辛い苦勞も 女ゆえ 人に涙は 見
せないけれど 儂(はかな)く消えた 初恋抱いて 泣いた涙を
誰が知る

のれん一代 名代の店を築く明日の 夢がある

度胸ひとすじ やるぞときめて 道頓堀の 水面に映す

かけた女の 心意氣

『恋桜 小林幸子』

春 乱れる 夜の桜坂 あなたが好き やっぱり好きだから

はらはら 女 吹雪きます 今夜は嘘がつけません 隠しきれない
帯の息 あなた 気づいてください ああ はらはら 女 吹
雪きます 人に言えない恋ですか 二千年目の流星が降る あな

たに散りたい

抱いてください 添えぬ運命でも あなたがいい 死ぬほど好きだから しんしん 女 痛みます 月もこぼれる石畳 ちぎれるような肌の音 あなた 気づいてください ああ

しんしん 女 痛みます 聞き分けのない恋ですか 二千年目の流星が降る あなたに散りたい

はらはら 女 吹雪きます 愛しすぎてもいいですか 二千年目の流星が降る

あなたに散りたい あなたに散りたい

「緑のふるさと」

演唱：石川さゆり 作詞：なかにし礼 作曲：浜圭介

我は海の子 大地の子 嵐に耐えて 凜と咲く 緑のふるさと 水
仙の花 奮い立つ 若い我らの 夢はるか

忘れられない 悲しみも 忘れられない 面影も 緑のふるさと
あなたとともに 永遠に胸に刻んで 抱きしめる

夜の大地に 雨が降る 夜明けの海に 雪が舞う 緑のふるさと
いつの日我に 悔しさを 愛と勇氣に 変えて行く

若い仲間と 肩を組み 明るい歌を 歌いつつ 緑のふるさと 帰
りなんいざ ふり仰ぐ 空に希望の 陽が昇る

『おおつごもりの 大晦日』

作词：喜多条忠 作曲：崎久保吉启 演唱：石川小百合

おおつごもりの 年の瀬に 百と八つの 除夜の钟

雪のお江戸に 响きます 今年も暮れたね お前さん

こんな女房で すまないけれど ほれた同士で 暮らそうね

おおつごもりに 积もるのは 銭や宝の 山じゃない 梦をかな
える 梦でいい 割れ锅とじ盖 どっこの ケンカばかりの
ふたりだけれど 妙に気が合う 味がある 今年も明けたね お
前さん 今の辛抱 七福神も きつと見ている 春が来る

「あや子のお国自慢だよ」

がんばるな東北

作词：小野彩 作曲：伊藤雪彦 演唱：藤あや子

ハアー 東北良いところ自慢なら（啊 說起東北令人驕傲的地方）
みんな喜ぶものばかり（大家都滿心歡喜）

来てたんせ 来てたんせ（一定要過來呀 一定要過來呀）

あなたの笑顔を待ってるからね（絕對會讓你笑開了顏）

わらじまつりに チャグチャグ馬コ（穿草鞋過的馬子節）

ねぶた 竿燈まつり（深夜的舉辦的竿燈節）

仙台的七夕よ 花笠踊り（戴著花笠來跳舞的七夕節）

東北の祭りは 明日へ（東北的節日）

夢を繋ぐのよ（就是明天的夢想啊）

ハアー お米豊作 祝い酒（啊 用大米釀的慶祝酒）

大漁 御礼 旗上げて（挂上大魚圖案的彩旗）

めでたいな めでたいな（值得慶賀呀 值得慶賀呀）

あなたと縁を 結びたいのよ（想與你在此結緣啊）

秋の奥入瀬 田沢湖 平泉（秋天 奥入瀬的溪流、田澤湖的湖水、平泉山的美景）

猪苗代湖を巡り 鳥海山をのぞむ（還可以巡游豬苗代湖 遙望鳥海山）

肩寄せ合った松島の（相擁聚集在松島）

真赤な紅葉が 頬を染めるのよ（更有那映得大家臉頰的楓葉）

ハアー 辛い冬でも乗り越える（啊 度過了令人無味的冬天）

強い心と優しさで（内心也變得堅強和溫柔了）

がんばるながんばるな（努力呀 要努力呀）

東北魂 忘れないでね（不要忘了東北人的精神呀）

桃やさくらんぼりんごの花が咲き（桃花 櫻花和蘋果花都開花了）

三陸の海の幸 豊富な山の恵み（得益於大海的幸運與群山的恩

惠)

冬のかまくら甘酒で (喝著冬季節日里溫暖人心的甜酒)

心温めて 春を待ちわびる (盼望著春天的到來)

ハアー これがあや子の東北自慢だよ (啊 這就是令綾子驕傲

的家鄉哟)

『夜空 五木宏』

あの娘 どこに居るのやら 星空の続く あの町あたりか

細い風の口笛が 恋の伤あとにしみる あー あきらめた恋だから
なおさら 逢いたい 逢いたい もう一度 夜は いつも 独り
ぼっち

あの娘 帰っておいでと 流れ星に乘せ そつと呼んでみた

誰も答えはしないよ 白い花が散るばかり あーとどかない夢
だからなおさら 淋しい 淋しい この胸よ 夜空 遠く 果てし
ない

『嵐嵐嵐がきても』

演唱 小林幸子

ほーやれほー なにひとつ 願い叶わぬさだめでも 願わずにいら
れない それが人の強さ 生まれ泣いて 甘え笑って 老いて空へ
帰る だから月よ 照らして欲しい 私たちの人生を 嵐嵐嵐がき
ても いまは泣きながら進め 目指せ心のままに ほーやれほー

名まえも知らない星が落ちる夜は 限りある人の命 抱きしめた
くなる いつかどこか生まれ変わって また会う日が来るとき
らりきらり 星が語るよ それは希望の涙 嵐嵐嵐が去れば

ひかり求めて進め 明日も心のままに 嵐嵐嵐がきても いまは
泣きながら進め 目指せ心のままに ああ嵐に ほーやれほー
すべてこわされて ほーやれほー ああ何度でも ほーやれほー
やり直すだろう ほーやれほー

「まごころの花」

作词：三浦康照 作曲：小野彩 歌手：藤あや子

あなた体を 大事にしてね いつも元気で ふたりでいたい 荫
であなたを 支えて生きる 愛はひとすじ 変りはしない これ
が私の あなたに捧げる たった一つの まごころの花

仕事疲れを 笑顔でかくす そんなあなたの やさしい気持 胸
にうれしさ 溢れてくるの 苦勞いとわず つくしてゆくわ
これが私の あなたに捧げる たった一つの まごころの花

あなた私の 手を離さずに生きて行きましょう ふたりの人生
(みち)を そばであなたを 励ましながら 守りつづける 女で
いたい これが私の あなたに捧げる たった一つの まごころ
の花

【私からあなたへ さくらまや】

そばに居てくれる ありがとう 優しいまなざしが 愛という
贈り物 おじいちゃん おばあちゃん 元気でいてね 真っ赤
バラ一輪 真っ赤なバラ一輪 心を添えて 私からあなたへ

長い歲月の ご苦勞に 感謝で応えましょ 幸せが届くようお
じいちゃん おばあちゃん 長生きしてね 真っ赤なバラ一輪
真っ赤なバラ一輪 思いを込めて 私からあなたへ

【ふるさと忍冬】

水いろ手袋 頬寄せて 遠いふるさと しのびます

冬に命の 根を伸ばす 庭に咲いてた 白い花 心こごえて し
ばれても 母の花です ふるさと忍冬

不倖に負けず 嘆かずに 強く優しく 生きてゆく いつか一緒
に 幸せに 蕾ふくらむ 春を待つ 心こごえて しばれても
命寄せ合う ふるさと忍冬

「愛の絆」が花言葉 暑いぬくもり 忘れない いつも笑顔で
いたならば きつといい日が やってくる 心こごえて しばれ
ても 母の花です ふるさと忍冬

「凛と咲く 真木ことみ」

素顔のままが 好きだよと 優しくあなたに 頬寄せた 刺がこ
ころに 刺さるほど 激しく強く 抱きしめて 傷つくことなど

怖くない女　ひとすじ　女はひとすじ　凜と咲く

北へと帰る　海鳥よ　迷いを知らない　いじらしさ

覚悟決めてる　恋だから　何があっても　離れない　世間の風にも嵐にも　負けずに明日へ　負けずに明日へ　凜と咲く

凍える夜は　そばにいて　ふたりの絆を　感じたい　いのち預けて　くれるなら　私の愛ので　守り抜く　幸せその手に　あげたくて　あなたの隣で　あなたの隣で　凜と咲く